

総務の 365日

情報セキュリティ パソコンデータの消去について

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

今や多くの人にとって、仕事をする上でパソコンは必需品となっています。自分のパソコンをプライベートと仕事の両方で活用しているという方も多いでしょう。その場合、自分自身はもちろん、名前や住所、様々なサイトのIDやパスワード、クレジットカード情報、写真や文書といった家族や友人の個人的な情報から、社内ネットワークに入るためのIPアドレスやパスワード、業務上のデータファイルといった仕事の情報まで、ありとあらゆる情報がそのパソコンに入っているはず。そのパソコンを廃棄や譲渡する時、これら重要データは完全に消去できているでしょうか？

実はデータは残っている

データを消去する際、多くの方は、次のような作業を行うと思います。

- ・データを「ごみ箱」に捨て、その「ごみ箱」を空にする
- ・専用ソフトでディスクをフォーマット(初期化)する
- ・リカバリーディスクでパソコンを工場出荷時の状態に戻す

一見、データが消去されたように見えますが、これらの操作では、管理情報が変更されただけで、実はハードディスク上にデータが残っています。しかも、特殊なソフトを使うことにより、データは復元できてしまうのです。

万が一、悪意を持った第三者に読み取られてしまったらどうなるでしょう。企業としての信用・イメージを損なうだけでなく、その情報漏洩によって被害を受けた人からは、損害賠償を求められる場合もあり、経済的損失にもつながりかねません。

このようなトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。

データを完全に消去するには

データを完全に消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービスを利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくする方法が考えられます。

① データ消去用のソフトウェアを利用する

ハードディスクに無意味なデータを上書きする方法です。上書き

するデータのパターンや書き込み回数により様々な方式があります。このような上書きにより、パソコン上のデータを復元して読み取れないよう、完全に消去することができます。

② ハードディスクを物理的に破壊する

専用機器でハードディスクを物理的に破壊し、機能滅失させる方法です。厳密な意味ではデータの消去ではありませんが、ハードディスクを破壊することによりデータの読み込みを不可能にします。

③ 専用機器でデータ消去する

消磁装置による消去は、ハードディスクの記録媒体を強磁気で消磁するものです。この方法で消去したハードディスクは、記録媒体が破壊されるのでハードディスクとして再利用することはできません。

④ 専門会社にデータ消去を委託する

「自分でできる自信がない」という場合は、業者に依頼することも可能です。パソコンショップでは、買い替えや破損などで不要になったパソコンの回収と同時に、データ消去サービスも受け付けています。データ消去ソフトでデータを消去後、専用の機器を使用して物理的破壊を行うというのが一般的な方法で、その場でデータを消去してもらえます。他、宅配での引き取りに対応しているパソコン回収業者もあります。作業が実際に見られないため、しっかりとデータが消去されるのか不安になる方もいると思いますが、業者によって『データ消去証明書』を発行してくれますので、データ消去作業を委託する場合は、こうしたサービスに対応しているかどうか選ぶポイントです。

このように、パソコンには個人情報や機密情報が集積しており、処分に伴うデータ漏えいのリスクを理解せずに廃棄や譲渡してしまった場合、後に重大なトラブルに巻き込まれてしまう可能性があります。2016年からはマイナンバー制度も開始され、データ漏えいに伴うリスクは更に高まることになります。そうした事態に陥らないように、上記の事をしっかりと理解し、適切に対処できるようにしておきましょう。



豊田 健一

『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。

お客様の

声



株式会社さいたまアリーナ様
〈オフィスリニューアルの狙い〉

書類の量が多く、山積み。来訪者からも丸見えだった。

- ① 雑多なオフィスをスッキリさせて、
社員のモチベーションに応えるオフィスにイメージを刷新したい。
- ② 来訪者へのセキュリティに配慮したレイアウトへ変更したい。

■ 執務スペース

Before



書類が多く、収納庫は埋め尽くされていたため、デスク周りに書類が山積みとなっていた。

After



レイアウト変更を機に従来の書類量から約30%を削減。収納庫は部署・個人別に割振り、書類を格納する際は、必要最低限に減らすことを習慣化。

施設稼働率が増えると、デスクワークが長時間化するのでハイグレードなチェアを採用。



廊下と執務スペースを区切る収納庫は、執務スペースが覗けない高さに。また共有の備品はオープン棚に設置し、何が置いてあるか明確にしました。



消耗品はオフィスの中央に集約し、分類別に保管。

キャビネットの上に作業台を設け、業務を効率化。



お客様の
声

業務的に書類が増えてしまいがちですが、今後は書類の電子化を導入し、書類量の増加を抑える取組みをしていきたいです。

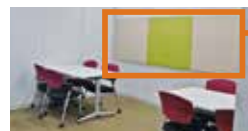
■ 来客スペース

さいたまスーパーアリーナが近未来的デザインなので、執務スペースは対照的に温かみを大切にしたいナチュラルな空間へ。



入り口付近の倉庫スペースを廃止し、来訪者向けのミーティングスペースへとリニューアル。来訪者が執務スペースへ立ち入る必要がなくなり、セキュリティレベルがアップ。

カーペットは茶色を基調にし、ポイントとして緑を配色。ナチュラルな印象に。



デザイン性に優れた吸音パネルを設置。音の跳ね返りが軽減され、会話がしやすくなりました。



お客様の
声

今後の増員を見込んだレイアウト変更でしたが、『使い勝手をガラリと変えない』ということも重視し、リニューアル後も、業務への影響もなく、快適なオフィスになりました。

従来の使い勝手はそのままに、業務効率の上がるオフィスになりました。

お客様情報

株式会社さいたまアリーナ

所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心8番地

設立年：1997年

従業員数：35名

事業内容：「さいたまスーパーアリーナ」および「けやきひろば」の事業運営・管理